

夕立

永井荷風

青空文庫

白魚しらうお、都鳥、火事、喧嘩、さては富士筑波つくばの眺めとともに夕立もまた東都名物ひとの一つなり。

浮世絵に夕立を描けるもの甚多し。いづれも市井しせいの特色を描えがき出して興趣しんく津々たるが中に鋏形くわがたけい蕙斎いさいが祭礼の図に、若衆わかいしゅ大勢たいせい夕立にあって花車だしを路頭に捨て見物の男女もろともに狼狽疾走するさまを描きたるもの、余の見し驟雨の図中その冠たるものなり。これに亜つぐものは国芳くによしが御厩川岸雨中の景なるべし。

狂言稗史はいしの作者しばしば男女奇縁を結ぶの仲立に夕立を降らしむ。清元浄瑠璃きよもとじょうるりの文句にまた一しきり降る雨に仲を結ぶの神鳴かみなりや互にいだき大川の深き契ちがひぞかわしけるとは、その名も夕立と皆人の知るところ。常磐津浄瑠璃ときわづに二代目治助が作とやら鉢の木を夕立の雨やどりにもじりたるものありと知れど未いまだその曲をきく折なきを憾うらみとせり。

一歳ひととせ浅草代地河岸だいちがしに仮住居かりずまいせし頃の事なり。築地より電車に乗り茅場町かやばちようへ来かかる折から赫々たる炎天俄にかきくもるよと見る間もなく夕立襲い来りぬ。人形町にんぎょうちようを過ぎやがて両国りやうこくに來れば大川おおかわの面は望湖楼ぼうころうか下かにあらねど水天みづの如し。いつもの日和下駄ひよりげた覆ふきしかど傘持たねば歩みて柳橋やなぎばし渡行わたりゆかんすべもなきまま電車の中に腰をかけての

雨宿り。浅草橋も後になし須田町に来掛る程に雷光凄しく街上に閃きて雷鳴止まず雨に
 は風も加りて乾坤いよいよ暗澹たりしが九段を上り半蔵門に至るに及んで空初めて晴る。
 虹中天に懸り宮溝の垂楊油よりも碧し。住み憂き土地にはあれどわれ時折東京をよ
 しと思うは偶然かかる佳景に接する事あるがためなり。

巴里にては夏のさかりに夕立なし。晩春五月の頃麗都の兒女豪奢を競つてロンシャンの
 賽馬に赴く時、驟雨濺来つて紅圀粉陣更に一段の雑沓を来すさま、巧にゾラが小説ナ
 ナの篇中に写し出されたりと記憶す。

紐育にては稀に夕立ふることあり。盛夏の夕われハドソン河上の緑蔭を歩みし
 時驟雨を渡頭の船に避けしことあり。

漢土には白雨を詠じたる詩にして人口に膾炙するもの東坡が望湖樓醉書を始め唐韓
 が夏夜雨、清吳錫麒が澄懷園消暑襟詩なぞその類尠からず。彼我風土の光景互
 に相似たるを知るに足る。

わが断腸亭奴僕次第に去り園丁来る事また稀なれば、庭樹徒に繁茂して軒を蔽い苔は階
 を埋め草は牆を没す。年々鳥雀昆虫の多くなり行くこと気味わるきばかりなり。夕立
 おそい来る時窓によつて眺むれば、日頃は人をも恐れぬ小禽の樹間に迷惑うさまいと興あ

り。巢立して間もなき子雀蟬とともに家の中うちに迷入ること珍らしからず。是れ無聊を慰むる一快事たり。

青空文庫情報

底本：「日本の名随筆18 夏」作品社

1984（昭和59）年4月25日第1刷発行

1999（平成11）年11月20日第20刷発行

底本の親本：「荷風全集 第一四巻」岩波書店

1963（昭和38）年6月発行

入力：門田裕志

校正：noriko saito

2009年12月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

夕立

永井荷風

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>